

平成24年行政事業レビューシート

(厚生労働省)

| | | | | | | | | |
|----------------------------|--|----------|-----------------|--|------------------------|------------------------|------------------------|------------------|
| 事業名 | 労災ケアサポート事業経費 | | 担当部局庁 | 労働基準局労災補償部 | | 作成責任者 | | |
| 事業開始・終了(予定)年度 | 昭和52年度 | | 担当課室 | 労災保険業務課 | | 植松 弘 | | |
| 会計区分 | 労働保険特別会計労災勘定 | | 施策名 | Ⅱ 2 4 労働災害に被災した労働者等の社会復帰に向けたリハビリ等を支援する | | | | |
| 根拠法令 (具体的な条項も記載) | 労働者災害補償保険法第29条第1項第2号 | | 関係する計画、通知等 | - | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | 在宅で介護、看護等を必要としている労災重度被災労働者等に対して、労災疾病に関する専門的な知識を有する看護師による訪問支援を実施すること等により、労災重度被災労働者の生命・生活維持に必要な援護等を図ることを目的とする。 | | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内。別添可) | 全国の労災年金受給者及びその家族に対して、次の業務を実施する。 ① 介護、看護、健康管理等に関する看護師による訪問支援 ② 健康管理に関する医師による医学専門的指導・相談 ③ 在宅で介護を要する労災重度被災労働者の傷病・障害の特性に応じた介護を行う労災ホームヘルパーによる専門的介護の提供及び養成 | | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 | | | | | | | |
| 予算額・執行額 (単位:百万円) | | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度要求 | | |
| | 予算の状況 | 当初予算 | 1,443 | 854 | 699 | 634 | 536 | |
| | | 補正予算 | | | | | | |
| | | 繰越し等 | | | | | | |
| | | 計 | 1,443 | 854 | 699 | 634 | 536 | |
| | | 執行額 | 1,387 | 854 | 662 | | | |
| | 執行率 (%) | 96.1% | 100.0% | 94.7% | | | | |
| 成果目標及び成果実績 (アウトカム) | 成果指標 | | | 単位 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 目標値 (24年度) |
| | 本事業に対する利用者から、介護、看護、健康管理、精神的ケア等の上で有用であった旨の評価を90%以上得る。 | | 成果実績 | % | 96.3% | 95.4% | 96.50% | 90% |
| | | | 達成度 | % | 107% | 106% | 107% | |
| 活動指標及び活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | | 単位 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度活動見込 |
| | 労災重度被災労働者等に対して、訪問支援を年間1万1千1百件以上実施する。 | | 活動実績 (当初見込み) | 件数 | 39,682件 (23,000件) | 26,977件 (23,000件) | 13,282件 (11,100件) | — (11,100件) |
| | | | | | | | | |
| 単位当たりコスト | 49,845(円/事業利用1回あたり) | | 算出根拠 | 662,046,329円(23年度執行額)÷13,282件(事業利用件数) | | | | |
| 平成24・25年度予算内訳 | 費目 | 24年度当初予算 | 25年度要求 | 主な増減理由 | | | | |
| | 労災ケアサポート事業業務経費 | 424 | 328 | 人件費及び訪問支援活動旅費の減 | | | | |
| | 健康管理指導等経費 | 5 | 5 | | | | | |
| | 労災ホームヘルプサービス事業経費 | 31 | 28 | 介護券(ホームヘルプ1時間券)の減 | | | | |
| | 労災ケアサポート事業運営費 | 89 | 73 | 地方事務所借料、通信費等の減 | | | | |
| | 本部(統括センター)諸経費 | 55 | 30 | 統括センター事務所借料等諸経費の一般管理費への組み替えによる減 | | | | |
| | 一般管理費 | - | 46 | 統括センター事務所借料等諸経費の組み替えによる増 | | | | |
| | 消費税相当分 | 30 | 26 | | | | | |
| 計 | 634 | 536 | | | | | | |

| 事業所管部局による点検 | | | |
|---|--|--|--|
| | 評価 | 項目 | 評価に関する説明 |
| 目的・予算の状況 | ○ | 広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。 | 労働災害による重度被災労働者は、じん肺、せき髄損傷等の傷病の障害を有する者が多いが、これらのは、呼吸困難、肺炎等の合併症を発症しやすいことや、褥瘡、尿路障害等の併発疾病を発症しやすいなど、加齢による一般的な身体能力の低下とは異なる労災重度被災労働者に特有の症状がみられること、また、一人暮らしの者も相当数いることから、看護師等による専門的な支援が必要であるため、労災重度被災労働者に対して介護支援を行う本事業の優先度は高い。 |
| | ○ | 国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。 | 労働者災害補償保険法第29条第1項第2号に、被災労働者の受ける介護の援護等を図る事業について実施することができることとされている。同条に規定されている事業を具体的に実施しているのが本事業であり、本事業は国が被災労働者に対し責任をもって実施する必要がある。 |
| | — | 不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。 | - |
| 資金の流れ、費目・使途 | △ | 支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。 | 競争性のある企画競争により受託者を決めているが結果的に一者応札となっている。 |
| | ○ | 単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。 | 効果的な訪問支援の実施に努め、1日あたりの訪問支援件数は2件以上を目途とする計画を策定し、移動コストの削減に努めている。また、単位あたりコストは、介護保険制度における訪問看護の1件あたり費用と比較して低額であり妥当である。 |
| | ○ | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | 本事業は、労災重度被災労働者の介護の援護等を図ることにより、労働者の福祉の増進を図ることを目的とした事業であり、事業主から徴収した労災保険料から経費を支出していることから、受益者との負担関係は妥当である。 |
| | — | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | - |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | 委託費の全てが本事業を行う上で必要な経費として使用されている。 |
| 活動実績、成果実績 | ○ | 他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。 | 本事業の利用対象者となる労災重度被災労働者の名簿を受託者に提供し、直接訪問支援等をさせることにより受託者において効果的な事業の実施を図っている。 |
| | ○ | 適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。 | 事業の適切な実施が確認できるよう、利用者の有用度を成果目標としており、目標を達成している。 |
| | ○ | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | 活動実績は、見込みを上回っている。 |
| | ○ | 類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名 訪問看護ステーション 社団法人 全国看護訪問事業協会等 | 本事業は、労働災害による重度被災労働者のみを対象者としているため類似事業との適切な役割分担となっている。 |
| | ○ | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | 利用者の有用度を把握することにより介護の質の向上を図っている。 |
| 点検結果 | 今後も必要な経費について要求するとともに、企画競争等の競争性のある調達を行うことにより、より多くの成果を引き出すよう努める。 | | |
| 予算監視・効率化チームの所見 | | | |
| 一部改善 | 労災ケアサポート事業については、事業の効率化を図り、人件費等のコストを削減して予算を縮減すること。 | | |
| 上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等) | | | |
| 縮減 | 事業の効率化を図り、人件費及び訪問支援活動旅費等を見直したことによる削減(反映額: ▲98百万円) | | |
| 補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載) | | | |
| 関連する過去のレビューシートの事業番号 | | | |
| 平成22年行政事業レビュー | 660-15 | 平成23年行政事業レビュー | 0990 |

厚生労働省
662百万円(平成23年度執行額)

事業管理・受託者への指導

A. (財)労災サポートセンター
662百万円

- ① 介護、看護、健康管理等に関する訪問支援
- ② 健康管理に関する医学専門的指導・相談
- ③ 在宅で介護を要する労災重度被災労働者に対する専門的介護の提供及び養成

資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

| A.(財)労災サポートセンター | | | E. | | |
|-----------------|--|--------------|----|-----|--------------|
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 人件費 | 職員給与、福利厚生費 | 326 | | | |
| 運営諸費 | 通信運搬費、光熱水料費、印刷製本費、租税公課、広報周知費、備品費 | 167 | | | |
| 旅費 | 訪問支援旅費、健康管理指導医旅費、メンタルケア指導医旅費、研修旅費、会議旅費 | 69 | | | |
| 賃借料 | 事務所借料、労災ケアサポート支援システム賃借料、コピー機借料、電話機借料 | 60 | | | |
| 消費税 | 消費税 | 31 | | | |
| 謝金 | 健康管理指導医謝金、メンタルケア指導医謝金、研修謝金 | 9 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 662 | 計 | | 0 |
| B. | | | F. | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 0 | 計 | | 0 |
| C. | | | G. | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 0 | 計 | | 0 |
| D. | | | H. | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 0 | 計 | | 0 |

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

| | 支出先 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 入札者数 | 落札率 |
|---|----------------|--|--------------|------|-----|
| 1 | 財団法人労災サポートセンター | 在宅で介護、看護等を必要としている重度被災労働者等に対して、労災疾病に関する専門的な知識を有する看護師による訪問支援を実施すること等により、労災重度被災労働者の生命・生活維持に必要な援護等を図る。 | 662 | 随意契約 | |